

2019年ラグビーワールドカップ(W杯)が開催される袋井市で、市民の機運醸成に向けて学生と飲食店が連携し、大会関連メニューの創作に乗り出した。ラグビーW杯に関連付けた商品開発は市内初とみられ、関係者は取り組みの波及に期待を寄せ、(袋井支局・伊藤龍太)

## 開催地・袋井

メニュー開発を手掛けるのは、試合会場となるエコパスタジアム近くの静岡理工科大の学生。女子の学生団体「リケジヨカフェ」の1年生5人がW杯を地域活性化につなげようと、同スタジアム最寄りのJR愛野駅周辺を

中心に、7店舗の協力を得て企画した。

昨年末、「カフェエターナーコナ」(同市愛野東)では情報学部の鈴木彩夏さん(19)と鈴木久美さん(19)がオーナーの山田樹志さん(43)と打ち合わせに臨んだ。アイデアを出し合い、完成したのは、日本代表のユニホームやピッチの芝生をイメージしたパンケーキ。他店ではラーメンや丼料理などの商品化が進んでいるという。5人は参加店舗をま



# ラグビーW杯 “味”な応援

## 「リケジヨ」と7店スクラム

とめた、パンフレットも制作中で、料理とともにW杯開催をアピールする。鈴木彩夏さんは「まだ学生や地域の人たちにW杯開催の雰囲気広まっていない気がする。メニュー開発を、地元が盛り上がるきっかけにしたい」と意気込む。

市も学生らの取り組みに注目する。市産業政策課の村田雅俊課長(50)は「食べ物に限らず、さまざまな商品が開発されれば、W杯の機運はおのずと高まっていく」と強調する。新メニューの発表は

## 盛り上げへ創作料理

完成したパンケーキについて意見を交わす(左から)鈴木彩夏さんと鈴木久美さん、山田樹志さん。2017年12月下旬、袋井市のカフェエターナーコナ



1月下旬を予定し、その後提供が始まる。